

令和５年度第２回古賀市総合政策検証会議 事後質問及び回答（公共施設関係）

資料	ページ	質問	回答
5	2	<p>5.具体的な取組 (5)長寿命化の実施方針 施設の長寿命化を行う場合、使用目標年数を75年とするとありますが、75年の根拠はどこから来ているのでしょうか？</p>	<p>長寿命化における使用目標年数の考え方 標準的な鉄筋コンクリート造（RC）の建築物の耐用年数は、総務省における公共施設の更新費の試算で用いられる60年と考えられています。建築学会における「建築物の耐久計画に関する考え方」では、普通の品質での施工における望ましい使用目標年数の最長期間は80年とされており、適切な維持管理がなされコンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には70～80年程度、更に技術的には100年以上持たせるような長寿命化も可能であるとされています。 こうしたことを踏まえ、古賀市では適切な維持管理をすることで長寿命化における使用目標年数を75年と設定しています。</p>
5	5	<p>今後の方向性について もし浄水場を更新せず、受水のみになった場合、水道料金が上がるなどの可能性はありますか？もしあるようであれば、受益者への影響も考慮に入れていただければと思います。また、飲み水として活用しない場合でも古賀ダムは防災上継続して活用されるという理解であっていますでしょうか？</p>	<p>浄水場を更新せず（廃止し）他団体から受水をした場合、将来的には水道料金が上がる可能性があります。（試算では令和27年度から） ちなみに、浄水場を更新した場合、試算では令和7年度から水道料金を上げる必要があることになっています。（全ての試算は令和2年度に行ったものですので現状とずれがあります。） どちらにしても、水道料金を上げる場合は、利用者へ周知を行う予定です。 古賀ダムは農業用のダムとしての機能を有しているため、浄水場を廃止した場合も、農業用のダムとして継続して活用してまいります。</p>